

# 安寧



社殿

兵庫縣姫路護國神社報  
 「安寧」第二十六号  
 発行所 兵庫縣姫路護國神社  
 〒650-0033 姫路市本町一八  
 電話 〇七九-三四一〇八九六  
 安寧(あんねい:世の中が穏やかで平和なこと)

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

## 誤られた歴史は

## 書きかえられねばならぬ

ラダビノード・パール

極東国際軍事裁判(所謂東京裁判)  
インド代表判事 博士

私は一九二八年から四五年までの十八年間の歴史を二年八カ月かかつて調べた。とても普通では求められないような各方面の貴重な資料を集めて研究した。この中には、おそらく日本人の知らなかった問題もある。それを私は判決文の中に綴った。この私の歴史を読めば、欧米こそ憎むべきアジア侵略の張本人であるということがわかるはずだ。しかるに日本の多くの知識人は、ほとんどそれを読んでいない。そして自分らの子弟に『日本は犯罪を犯したのだ』『日本は侵略の暴挙をあえてしたのだ』と教えている。満州事変から大東亜戦争勃発にいたる真実の歴史を、どうか私の判決文を通して十分に研究していただきたい。日本の子弟がゆがめられた罪悪観を背負つて、卑屈、頹廢に流れてゆくのを私は見過ごして平然たるわけにはゆかない。誤られた彼らの戦時宣伝の欺瞞を払拭せよ。誤られた歴史は書きかえられねばならぬ。

(昭和二十七年十一月六日広島高等裁判所に於ての講演録から抜粋)

【平成七年八月靖國神社社頭掲示】



# 令和三年度春季慰霊大祭

## 齋行

五月二日 午前十時三十分

薫風漂う中、新緑滴る境内で恒例の祭典が齋行された。

本年は三度目の緊急事態宣言発令に伴い、昨年の春同様、新型コロナウイルス感染防止のため、ご遺族・来賓等の参列は控え、当日数名の参列者を迎えた中での厳粛な大祭であった。



定刻通り号鼓、齋館玄関から宮司以下祭員六名が本殿に向かって参進。本殿に拝礼後、修祓に続いて海川山野の神饌が供えられた。

静寂の中、宮司より英霊感謝の祝詞に加え、新型コロナウイルス流行鎮静祈願の祝詞の奏上。玉串奉奠ののち、御霊の平安を祈った。献茶や詩吟などの神賑行事は控え、粛々と祭りが執り行われた。

# 神社本庁設立七十五年表彰 受賞 総代会会長 三木英一氏

護國神社を包括する神社本庁は七十五周年を迎え、各地の神社に貢献のある方々を称える表彰式が池田厚子（昭和天皇様の第四皇女）総裁御台臨のもと東京明治記念館で行われ、兵庫県からは三木英一氏が表彰をお受けになる予定であったが、コロナ禍により中止となった。したがって、伝達式を総代会の席上行った。

永年にわたり、姫路市遺族会長として、また、神社の総代会会長としての御功績が称えられた。御父上がパラオ諸島で戦死をされており、護國神社祭祀継続には大きな情熱をかけられ、総代会会長に、併せて崇敬奉賛会の運営委員もお勤めである。また、日本の伝統文化の継承や教育など多方面でご活躍中である。





戦後、護國神社の祭祀を支えてこられたのは、戦地から帰られた戦友、そして戦没者の御遺族でありました。しかし、戦後五十年を経過したところからは時の経過とともに戦中派の方々は減少してきました。そこで、戦後の生まれの方々を含めて神社を支える方々が結集する奉賛会の設立が望まれました。総代会では準備委員会の会合を重ね、各方面のご賛同をいただき、平成二十二年設立されました。

それ以降神社の行事ごとに様々な活動を致し、また、戦士の証言や講演会を実施、現在では会員も四百名を超え、各種行事に参加されています。

# 崇敬奉賛会 十年の歩み

平成二十二年  
四月二十六日発会



崇敬奉賛会長 大祭参拝



崇敬奉賛会 発会式 集合写真



崇敬奉賛会 総会



高清水有子氏 講演



井上和彦氏 講演会



藤原正彦氏 講演会



終戦七十年記念講演 スタッフ打合せ



英霊顕彰の集い



陸上自衛隊 ラッパ手奉納



みたまなごめの舞



英霊顕彰の集い「エイミーズ」



戦士の証言ポスター



熱く語られる元兵士



戦士の証言



英霊顕彰の集い 朗読



英霊顕彰の集い パネル展示



新年祈願祭 直会



戦士の証言参加者

## 崇敬奉賛会 年表

日程	会場	神社行事	奉賛会行事	講師等出演者
H22. 4. 26			発会・発会奉告祭	
H22. 7. 5			独立総合研究所 青山繁晴氏 正式参拝	
H22.11. 21	市民会館	田母神俊雄氏 正式参拝	田母神俊雄氏 正式参拝・講演会「姫路田母神塾」	元航空幕僚長 田母神俊雄氏
H23. 1. 10			新年祈願祭	
H23. 8. 15		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	特別講話「終戦の詔書」講師：三木英一 電子紙芝居「お父さんへの千羽鶴」
H23.12. 4			「映画会並びに開戦の詔書解説」	前川英昭「パラオと日本」
H24. 1. 9			新年祈願祭	
H24. 3. 25		小野田寛郎氏 正式参拝		
H24. 8. 15		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	桜林美佐氏 講演「国防の今を考える」 桜林美佐氏「拉猛に散った花」朗読
H24. 9. 1			絵本作家『お父さんへの千羽鶴』ときたひろし氏 正式参拝	
H25. 1. 14			新年祈願祭	廣畑天満宮 三木通嗣宮司講演『お伊勢さん』
H25. 4. 26			奉賛会総会	
H25. 8. 15		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	映画上映『南の島に雪が降る』 戦史研究者 上谷昭夫氏『郷土の特攻隊員に捧ぐ』 元海軍零式戦闘機パイロット 笠井智一氏
H26. 1. 12			第1回「戦士の証言」	元海軍零式戦闘機パイロット 笠井智一氏
H26. 1. 13			新年祈願祭	アーティスト 山口采希氏
H26. 4. 14			奉賛会総会	
H26. 7. 19			第2回「戦士の証言ー酷暑キスカの戦場ー」	元二等整備兵 安川 毅氏
H26. 8. 15		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	自衛官2名 ラッパ奉納 旧陸軍 林 好夫氏ラッパ奉納 朗読「死んでもラッパを離さない〜木口小平」 アニメ決断「キスカ島撤退」 映画「凜として愛」 ひとり語り「終戦後に散った防人」
H27. 1. 11			第3回「戦士の証言 ーシベリアに抑留された兵士が語る現代に伝えたいことー」	元日本陸軍 荒木正則氏
H27. 1. 12			新年祈願祭	落語 夢ノ家くっか
H27. 1. 16		天皇后両陛下下神戸行幸啓につき幣帛料伝達式に宮司出席		
H27. 5. 31	イーグレ姫路		終戦70年 井上和彦氏講演会「日本軍かく戦えり」	講師 井上和彦氏
H27. 8. 15		大東亜戦争終結70年 英霊感謝祭並びに英霊顕彰の集い		陸上自衛隊姫路駐屯地ラッパ手 奉納 「激戦パラオの戦い」 「日本を唄う」歌手：金澤俊典氏など
H27.11. 2		大東亜戦争終結70年臨時大祭		高清水有子氏 講演 市川町 甘地の獅子舞奉納 兵庫県神道青年会 大祓詞奏上
H28. 1. 11			新年祈願祭、 第4回「戦士の証言ースマトラの捕虜体験ー」	元大河内町長 井上四郎氏
H28. 3. 6			第5回「戦士の証言ー祖國の誇りー」	元特攻隊員 栗永照彦氏
H28. 4. 20			奉賛会総会	
H28. 8. 15		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	元航空自衛官・ブルーインパルス編隊長 岡本俊基氏 講演 「元空自戦闘機パイロットのよもやま話」 林 好夫氏 ラッパ演奏
H28. 9. 21		第一回平和揮毫		
H28.11. 3			第6回「戦士の証言ー若い方に伝えておきたい言ー」	元海軍中尉 加藤 昇氏
H29. 1. 9			新年祈願祭	森川浩恵氏 お琴・歌の演奏
H29. 4. 17			奉賛会総会	
H29. 6. 3			第7回「戦士の証言 ー日本人はどうしてこんなにだらしくなったのかー」	海軍上等飛行兵曹 大野徳兵衛氏
H29. 6. 4		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	清瀬一郎氏没後50年 「清瀬一郎と東京裁判展」
H29. 9. 21		第二回平和揮毫		
H30. 1. 8			新年祈願祭	西川かをり氏 箏の演奏
H30. 4. 16			奉賛会総会	
H30. 7. 1			第8回「戦士の証言ーアコーディオンで戦友に捧ぐー」	シベリヤ抑留体験：田中唯介氏
H30. 8. 1		境内整備事業起工奉告祭 並 樹木伐採清祓式		
H30. 8. 15		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	紙芝居「お父さんへの千羽鶴」特集「沖縄戦」、 島田勲元沖縄県知事顕彰、「義烈空挺隊」 沖縄民謡「エイミーズ」
H30. 9. 21		第三回平和揮毫		
H30.11. 2		秋季慰霊大祭 併 ご創祀125年 ご鎮座80年祭		
H30.11. 3		明治維新150年祭記念大祭		藤原正彦氏 講演会「明治の精神」 旧陸軍第10師団の顕彰(11/2,3)

日程	会場	神社行事	奉賛会行事	講師等出演者
H31. 1. 10			新年祈願祭	アーティスト 山口采希氏
H31. 2. 24		天皇陛下御即位30年奉祝奉告祭		
H31. 4. 15			奉賛会総会	
R元 9. 21		第四回平和揮毫		
R元 5. 2		天皇陛下御即位奉祝奉告祭	祭並びに令和元年度春季大祭	涼恵氏「護國の桜」
R元 6. 9			第9回 「戦士の証言—女子挺身隊の実情—」	講師：新田和子氏
R元 8. 15		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	電子紙芝居「神様と神棚と」 播州白山神社 禰宜 小畑加苗 電子紙芝居「戦場に青春を捧げた乙女たち」 播州白山神社 禰宜 小畑加苗 漫画家島奈津子氏「白衣の天使」
R元 10. 22		即位の礼正殿の儀 奉告祭		
R元 12. 15			(中止) 第10回 「戦士の証言」	講師：堀江正夫氏
R2. 1. 13			新年祈願祭	しらすまぎジック研究会：安田二三男氏
R2. 4. 1			奉賛会総会 (書面決議)	
R2. 6. 7			(中止) 第11回 「戦士の証言—海軍年少兵が体験した戦場—」	元海軍仁等兵曹 西嶋仁郎氏
R2. 8. 15		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	会館にて展示会
R2. 9. 21		第五回平和揮毫		
R3. 1. 11			新年祈願祭	
R3. 4. 19			奉賛会総会	
R3. 8. 15		英霊感謝祭	英霊顕彰の集い	
R3. 9. 20		第六回平和揮毫		
R3. 11. 3			崇敬奉賛会10周年記念式典	白駒妃登美氏 講演 「歴史が教えてくれる日本人の生き方」

# 英霊感謝と英霊顕彰の集い 令和三年八月十五日

コロナ禍で迎えた今年の八月十五日は、午前八時の段階では雨模様で境内に水たまりが出来るくらいでしたが、英霊感謝祭がはじまる午前十時には、雨は上がり晴れ間がのぞくまで回復し、例年の蝉の音がこだまする暑い日差しになりました。コロナ禍でありながらも、百名以上の人が参列して英霊に感謝の誠を捧げました。

感謝祭終了後、今年初めてお社の前で崇敬奉賛会員四名による『英霊の言乃葉』の朗読を行いました。(画像参照)

正午は全国戦没者追悼式の様子を境内で聞きながら、皆で一分間の黙祷を捧げました。天皇陛下のお言葉を拝聴し、その後は、崇敬奉賛会員のピアノ伴奏の下、境内にいる人達で「海ゆかば」を斉唱しました。

護国会館二階では、「とある日本兵士の孤独」や「戦士の証言」などの映像展示が人数制限の下で行われました。毎年八月になりますと、反戦平和を主張するテレビ番組や雑誌や言論を目にします。その中で、『戦争中に亡くなられた人々には、現在の人達と同様に普通の生活があり、確かな人生があったことを知ってほしい』というものに目がとまりました。一見、最もらしく聞こえるのですが、よく考えてみると、「世界は常に平和である」という前提で言われている気がします。

先人達は政府の強制的な命令で戦地で戦ったのではなく、日本の平和が脅かされたから、勇気を奮い立たせて戦地に趣かれたのです。戦わなければ、普通の生活など出来なくなるところか、植民地になっていたでしょう。英霊の遺書や手紙を綴った英霊の言乃葉の中には、『我が人生に悔いなし』といった表現をよく目にしますし、特攻隊員達には「こり笑って飛び立っていかれました。そこに「後悔」といったようなものは感じられません。ご英霊には、自分たちは日本の一部であるという気持ちがあったのだらうと思います。だから、尊いのであって、

後に残った我々が感謝の祈りを捧げなければならぬのではないのでしょうか。

英霊の御心に触れたい、もっとと彼らのことを知りたいと思う方は、毎年八月十五日に英霊の言乃葉の朗読をしますので、是非、当神社にご参集下さい。

今年参列して下さった人達の感想を抜粋して紹介します。

- 英霊の言乃葉の朗読を聞いてとても優しい人達だと思いました(十代 女性)
- 同じ三十代の人達が戦地で亡くなっていることを知りました(三十代 男性)
- 沢山の皆さんがこの国を支えて下さって今があることを再認識しました(四十代 男性)
- 国を守りたい兵隊さんの気持ちに心打たれました(五十代 男性)
- 英霊の言乃葉の朗読は、女性も素晴らしいが、男性が読まれると気持ちが良い(六十代 女性)
- 大東亜戦争を戦った方々の証言は貴重なので、後世に伝えるべきです(七十代 男性)
- 今年で最後の参列かと思いましたが、オリンピックの日本選手の活躍で勇気をもらったので来年も頑張る(八十代 男性)
- 英霊の言乃葉は多くの人に聞いてもらいたいと切望します(八十代 男性)

(文責 崇敬奉賛会 常任理事 前川英昭)





# シリーズ 英霊の戦場(七)

## ソ連軍の不法侵攻から北海道を救った樋口季一郎陸軍中将の決断 (安寧二十五号続)

### 千島列島対ソ戦までの経緯 (地図1参照)

#### ソ連側 (日時は日本を採用)

昭和二十年二月九日 ヤルタ会談でスターリンはソ連対日参戦の条件として「奪われた領土(千島列島と南樺太)を取り戻す」とルーズベルトと密約。

八月 九日 日ソ中立条約(昭和二十一年四月まで有効)を破棄し日本に宣戦布告。先ず満洲の權益獲得を優先して八〇個師団で満洲に侵攻。

十一日 極東方面軍の第十六軍が南樺太に侵攻。

十四日 日本がポツダム宣言受諾を知ったスターリンは日本の降伏が予想より早く、直ちに千島列島を侵攻する準備を発令。

十五日 太平洋艦隊と極東方面軍に出撃を発令。

十七日 五時 侵攻軍出港 兵力八三三三人  
カムチャツカ半島ペテロパブロフスク出港艦隊航海中、ロバトカ岬から占守島に連続砲撃、日中は爆撃機が同島軍事施設に偵察を兼ねて反復爆撃を実施。

十八日 二時 先遣隊(海兵隊)が占守島上陸。

同日 スターリンはトルーマン大統領に対し千島列島と北海道北部(留萌〜釧路を結ぶ北部)の占領を認めるよう求めたが米国は北海道を拒否した。然しソ連は北海道占領を放棄しないまま作戦を遂行。

尚、米軍は八月十四日まで艦隊や爆撃機で千島列島の

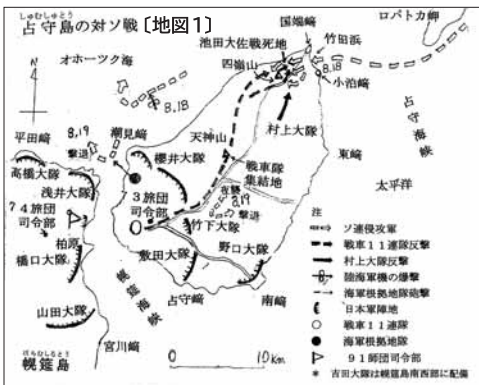
軍事施設や港を砲撃し、結果としてソ連の侵攻奇襲作戦に協力する戦闘行動をとった。

#### 日本側

昭和二十年三月 沖繩が戦場になると決まった後、本土決戦準備が発令され、北海道から本州に兵力転移が行われ第五方面軍も北海道防衛重視の為、六月不足した兵力を南樺太と千島列島から引き抜かざるを得ず、千島列島防備は第九十一師団(師団長堤不夾貴中将)と戦車第十一連隊(連隊長池田末大佐)のみとなる。海軍は根拠地隊が在島。

樋口軍司令官は米軍の北方からの攻勢は占守島と幌筈島で長く防戦し、その間、割り当てられた地域を護り抜く態勢を決意した。其の為占守島の戦闘は水際防衛から島内防衛に移行する旨決断、師団は一丸となって陣地構築に邁進した。

師団長は兵力を第七十三と七十四旅団(各歩兵四個大隊基幹)に二分し、占守島に第七十三旅団と戦車第十一連隊を、幌筈島に師団司令部と第七十四旅団を配備した。



池田大佐の歩戦協同訓練の重要性が認められ、練度向上は士気も高揚させた。尚、八月十四日まで米軍爆撃機が飛来する度に陸海軍の戦闘機(七機)と高射砲部隊の活躍で来襲機の半数



左から堤第91師団長、樋口方面軍司令官、久保海軍根拠地隊司令官

を撃墜する戦果も挙げている。

樋口司令官はソ連の対日参戦が決まった後、千島列島に「万一、ソ連軍が侵攻した場合も対米戦法で対処せよ」と指示し、戦法の本体化を図った。

十五日 終戦に伴う軍の行動等を大本営から受け、樋口軍司令官は住民保護を重視する軍の規律と士気を維持する決断し、各指揮官に徹底した。

十六日 軍司令官の訓示(要旨)  
「ソ連軍の侵攻に対しては断固たる決意で態勢を整えたが、終戦の聖断に従い今後は日本再建の礎石となる建設に移行することとなる。最後まで軍紀を刷新すべし。尚、ソ連軍が侵攻作戦を継続する場合は自衛戦闘を断行すべし」と全軍に指達した。但し、大本営の自衛戦闘の定義(攻撃や反撃をせず、陣地を堅守)は実戦では部隊の指揮を錯乱させた。  
十七日 師団長は司令部に海軍を含む全部隊長及び日魯漁業者を集めて「新皇国再建計画案」を示して将兵の奮起を要望した。その後、方面軍から「一切の戦闘行動停止を十八日十六時とする」命令を受け、師団長はこの重要な日時は連合軍との協定の結果であると判断した。(実情は大本営と方面軍の調整で決定したものであった。)この誤解が対ソ戦に油断をもたらした。米軍の停戦交渉軍使一行が十八日以降来島すると予想した。陣地作業を

中止し武装解除に応じる準備を命令、各部隊は武器等を分解手入れし、弾薬類の海中投棄準備等を実施。日中のロパトカ岬からの砲撃や反復爆撃は被害も少なく連合軍の日常行動と思ひ込んで、危機感はなかった。

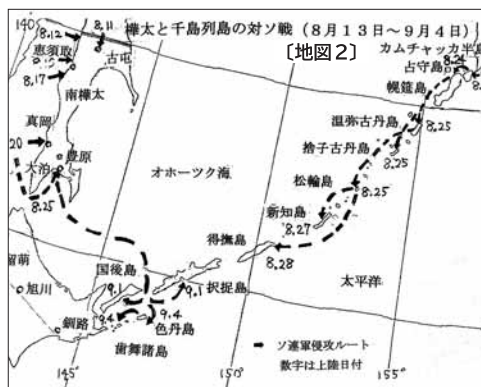
### 千島列島対ソ戦 (地図1参照)

八月十八日 一時半 突然ロパトカ岬から激しい砲撃 (上陸掩護射撃) が開始。二時頃国端崎監視所から「海上にエンジン音聞こえる」の報が守備隊に入る。守備隊の村上大隊長は「夜中に軍使が砲撃をしつつ来島する筈が無い、危険」と判断し、直ちに全守備隊に戦闘準備を命じて陣地配備を執行した。島唯一の上陸適地竹田浜は海霧に覆われていたが、監視所から「敵上陸用舟艇多数発見」「敵の上陸兵約千人」と報告が入る。村上大隊長は直ちに射撃開始を命じた。海霧下でも訓練していた国端崎の野砲と小泊の速射砲の威力は凄まじく、上陸用舟艇十三隻を撃破、海上歩行して上陸するソ連軍将兵の戦死傷は夥しい数となった。「日本軍の反撃が途中で中止しなかつたら我が軍は全滅した」とソ連の戦史に記載されている。村上大隊は広範囲に分散配備しており隙間だらけであったので上陸したソ連兵は容易に四嶺山陣地を包囲したが、守備隊の勇敢敢闘で陣地を保持した。



戦車第11連隊長 池田末男大佐

師団長は二時半、戦車第十一連隊に国端崎に出撃を命じた。池田大佐は直ちに全部下に「本日十六時まで敵を水際に殲滅する」との命令を下達し、戦車四〇両を集結。自らは白鉢巻姿で乗車し、四時頃、四嶺山を包囲中の敵軍に向かって国旗を掲げ、師団長に「祖国の弥栄を祈る」と報告して突進し、包圍部隊を撃退した。更に六十四両の戦車を措挿して後続上陸部隊を蹂躪して敵を竹田浜方



面に退却させた。然しソ連軍も対戦車砲を集中使用し二十七両の戦車を失った。この激戦で池田大佐は戦死した。陸海軍航空機 (単四機・艦攻四機) も反復出撃し艦船七隻を撃沈撃破した。

師団長は第七十四旅団も反撃に加担させ、敵を水際に殲滅態勢を採った時、方面軍から「戦闘を停止して自衛戦闘に移すべし」の命令が届く。直ちに停戦交渉の軍使をソ連軍指揮所に派遣するも、停戦交渉は拒否された。

十九日 七時頃 幌筈海峡に侵入しようとしたソ連軍艦艇の前方に海軍根拠地隊が砲撃を加えて撃退。竹田大隊守備陣地に加勢した山田大隊正面に夜襲を敢行したソ連軍を撃退。

二十日 ソ連軍は後続部隊を掌握し、終日かかって攻撃態勢を整えた。停戦交渉再開するも拒否。

二十一日 七時 大本営から「連合軍に停戦折衝の要請が承認された」を知らされた樋口軍司令官は師団長に「停戦、武装解除」を発令。ソ連も了承。この戦闘膠着中に、師団長は日魯漁業女子従業員約四〇〇名を無事北海道根室に帰還させた。

二十三日と二十四日 師団は武装解除した。ソ連政府機関紙イズベスチアは「占守島の八月十九日はソ連人民の悲しみの日である」と報道した。

占守島戦日ソ両軍の人的損害

日本軍 戦死傷 約六〇〇名

ソ連軍 戦死傷 約三〇〇〇名

この損害からソ連軍の武力による占領を慎重にさせた効果は大で、北海道北部占領を諦めさせる主因。

尚、樋口中将は占守島防衛に携わった部下の功績が大と称賛し、自らは戦後反省の日々を送られた。

### 中・南部千島列島 (地図2参照)

停戦交渉が成立した後のため上陸即占領が続いたが、得撫島守備隊は八月三十一日武装解除までソ連軍を拘束した。択捉島守備隊 (第八十八師団) は二十九日、国後島守備隊は九月一日武装解除の報を確認したスターリンは南千島 (現北方四島) をも占領せよと樺太大泊に上陸した海軍歩兵混成旅団に出撃を命じた。この占領は連合軍憲章の違反にあたり、現在も返還交渉が続いている。又、降伏した守備隊将兵も国際法に違反してシベリアに抑留した。



晩年の樋口季一郎 陸軍元中将

スターリンは二十一年八月十六日の連合軍安保理で「北海道北部をソ連占領地にせよ」の公式提案 (要求) に米国が拒否。

樋口季一郎氏は戦後「日本は速やかに再軍備しないと国際政治の非情さから平和も国民も守れない」と提言されている。

近年、樋口季一郎記念館が北海道石狩市に開館。又、生誕地淡路に功績を称える銅像建立の企画が推進されている。

参考文献 防衛省戦史叢書「北東方面陸軍作戦」

(文責) 崇敬奉賛会理事 曾田孝二郎



# 新年万灯祭

## 献灯のお願い

毎年一月一日から一月十日の間

新年万灯祭を行っています。員美命

ご神前に献灯し

神の庭を明るく照らし

心和やかに心安らかに

新しい年を迎えられますよう

神前献灯に是非お申し込み下さい

献灯初穂料

一灯 一〇、〇〇〇円

申し込み期間

十一月末

